

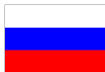
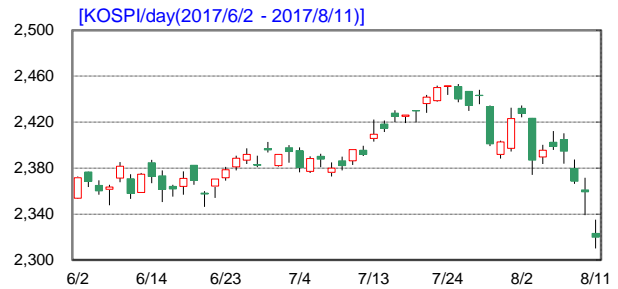


## 【韓国】 総合指数は週間で 3.2%安と 3 週続落、北朝鮮リスクを嫌気

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 3.2%安と 3 週続落。週明け 7 日は上昇でスタートしたが、8 日以降に 4 日続落となり、下げ幅を広げた。週末終値は 2319.71 ポイントと 5 月 24 日以来 2 カ月半ぶりの安値圏まで下げた。北朝鮮の軍幹部が米領グアム沖への弾道ミサイル発射計画を 9 日に明らかにしたことで、リスクを嫌気した売りが膨らんだ。サムスン電子や SK ハイニックスなど世界展開する大型株の下落が目立った。週前半は 7 日に贈賄罪などに問われたサムスン電子副会長の李在鎔被告の公判、8 日に現代自動車で発生した従業員による部分ストがあり、投資家心理を冷やした。今週は 15 日が解放記念日で休場。米韓軍事演習の開始を 21 日に控え、北朝鮮との威嚇の応酬がエスカレートすれば、地政学リスクへの警戒感が高まりそうだ。

▼指数チャート

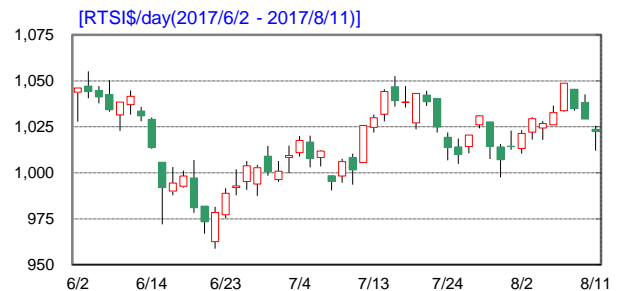


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で 0.4%安と反落、今週は北朝鮮リスクで弱含むか

### 先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で 0.4%安と反落。週前半は堅調を維持したが、北朝鮮情勢を巡る地政学リスクへの警戒感と原油価格の下落で、週末にはマイナス圏に沈んだ。週序盤は前週の流れを引き継ぎ買い優勢の展開で、8 日には 7 月 17 日以来の高値である 1048.69 ドルまで上値を伸ばした。ただ、週央以降は北朝鮮リスクへの警戒感の高まりと原油価格の下落により軟調。OPEC 月報で 7 月の産油量が若干増産していたことが判明し、減産合意が守られないのではという懸念でブレント原油価格が 53 ドル台後半から 52 ドル台前半まで下落すると、RTS 指数は 10 日に前日比 0.6%安と連れ安。11 日は 1012.09 ドルまで下げ、前日比 0.7%安の 1022.41 ドルで取引を終えた。今週は北朝鮮リスクと原油価格の安定次第だが、弱含むか。

▼指数チャート

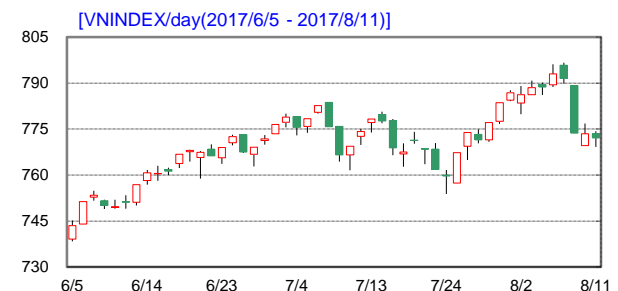


## 【ベトナム】 VN 指数は週間で 2.1%安と反落、今週は押し目買いも想定

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.1%安と反落。前週に 2008 年 2 月以来の高水準を回復した指数は、先週前半はもみ合いながらも小じっかり。796.62 ポイントまで上昇し、前週に続き 9 年半ぶり高値を更新した。ただ、週半ば以降は北朝鮮問題を巡る地政学リスクが意識されたことで、高値圏で推移していた指数は売り優勢となった。ベトナム投資開発銀行の元会長が逮捕されたとのうわさも市場心理を冷やす要因。9 日は指数が一日で 2.3%下落し、10-11 日は一時的に 770 ポイントを割り込んだ。11 日は急落による値ごろ感もあり、前日比ほぼ横ばいの 772.08 ポイントで週の取引を終えた。個別では上述のベトナム投資開発銀行が 9.4%安となり、指数を押し下げた。今週は北朝鮮問題の行方次第だが、押し目買いも想定したい。

▼指数チャート

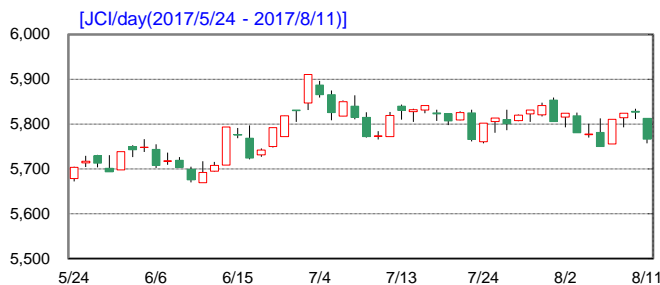


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】**ジャカルタ総合指数は 0.2%安、4-6 月期の GDP 成長率は前年同期比 5.0%

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%安と続落。内外の要因で乱高下した 1 週間だった。7 日は 4-6 月期の GDP 成長率が個人消費の伸び悩みを受けて前年同期比 5.0%と市場予想をわずかに下回ったことで失望感が広がり、指数は 3 営業日続落。一方、8 日はフィッチ・レーティングスが今年の世界経済成長率の見通しを 6 月時点での 2.9%から 3.0%に引き上げたことが好感されて前日比 1.1%高と反発した。その後は 10 日まで 3 日続伸したが、11 日は北朝鮮情勢が緊迫化した影響で前日比 1.0%安となり、取引を終了した。今週は 15 日に 7 月の貿易統計が発表される予定。17 日は独立記念日のため休場となる。

### ▼指数チャート

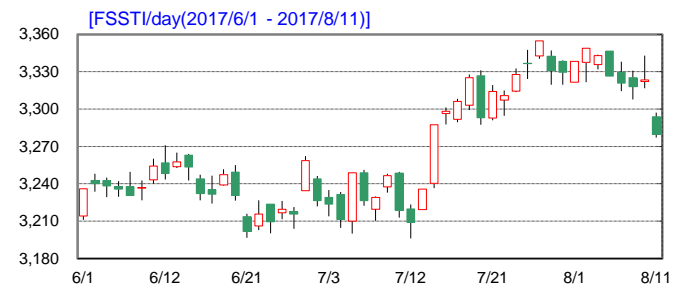


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】**スレーツタイムズ指数は 1.4%安、今週は 7 月の非石油地場輸出に注目

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.4%安と続落。週末の反落で約 1 カ月ぶりの安値で引けた。8 日は中国の 7 月の貿易統計で前年同月比の伸び率が輸出入ともに市場予想から下振れしたことが嫌気されて売られたが、祝日を挟んだ 10 日は反動で金融株と工業関連株が買い戻され、指数は 5 営業日ぶりに反発。11 日は 4-6 月期の GDP 成長率の確定値が速報値の 2.5%から 2.9%に上方修正されたが買い材料にならず、NY ダウの 3 日続落を受けて指数は前日比 1.3%下落した。今週は 17 日に 7 月の非石油地場輸出が発表される予定。外部要因では北朝鮮情勢の行方に注目が集まりそうだ。

### ▼指数チャート

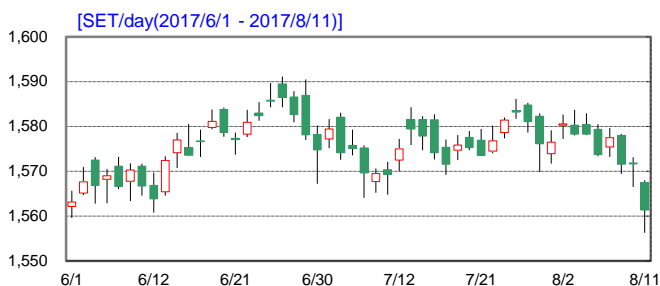


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】**SET 指数は 1.1%安、地政学リスクの高まりが指数下落をけん引

SET 指数は週間で 1.1%安と続落。国内のイベントが少なく、一進一退を繰り返しながら徐々に下げ幅を広げた。週初の 7 日は反落したが、8 日は金融株が買われて反発。9 日は北朝鮮がグアム周辺へのミサイル発射を検討していると発表したことで、前日の NY ダウが 11 営業日ぶりに反落した流れで売られた。10 日はほぼ横ばいだったが、11 日は地政学リスクの高まりが嫌気されて終値で 1 カ月ぶりに 1570 ポイントを割り込んで取引を終了。今週は 16 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は 1.50%に据え置かれると予想されている。14 日は母の日（王妃誕生日）の振替休日のため休場。

### ▼指数チャート

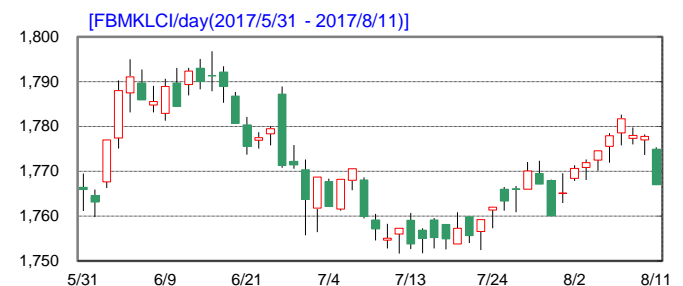


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】**クアラルンプール総合指数は 0.4%安、今週は 18 日に 4-6 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.4%安と 4 週ぶりに反落。週末の下落が痛手だった。週初の 7 日は、前週末の NY ダウが米雇用統計の内容が堅調だったことを受けて 8 日連続で過去最高値を更新した流れで値上がりすると、8 日まで 6 営業日続伸したが、9 日は利益確定売りで反落。10 日は 6 月の鉱工業生産と小売売上高がともに市場予想から上振れしたものの、北朝鮮がグアム周辺へのミサイル発射準備が今月中旬までに完了すると発表したことが嫌気された。結局、11 日まで 3 日続落して取引を終えた。今週は 18 日に 4-6 月期の GDP が発表される予定で、前年同期比の成長率が 5%台に達するかが焦点

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。